

平成30年6月定例教育委員会 会議録

1. 日 時 平成 30 年 6 月 26 日 (火) 開 会 午後 13 時 30 分
閉 会 午後 15 時 00 分

2. 会 場 茅野市役所 議会棟 大会議室

3. 出席委員	教育長	山田 利幸	同職務代理人	矢崎 靖雄	
	教育委員	濱 勝之	教育委員	小林 俊恵	
	教育委員	小平 光子			
	出席者	生涯学習部長	平出 信次	こども部長	牛山津人志
	学校教育課長	有賀 淳一	幼児教育課長	五味留美子	
	こども課長	五味 健志			
	生涯学習課長	藤森 隆	文化財課長	両角 勝元	
	中央公民館長	矢島喜久雄	スポーツ健康課長	中村 浩明	
	教育総務係長	渡辺 雄一	こども係長	今井 明彦	
	教育総務主事	牛山 紘貴			

4. 傍聴者 3 名

6月定例教育委員会次第

日 時 平成 30 年 6 月 26 日（火）午後 1 3 時 3 0 分から
場 所 市役所 議会棟 大会議室

1 開 会

2 前回会議録の承認

3 報告事項

第 1 号 教育長報告

第 2 号 各課からの報告

（1）学校教育課

（2）こども課

（3）幼児教育課

（4）生涯学習課

（5）公民館

（6）文化財課

（7）スポーツ健康課

第 3 号 教育委員会共催後援

（1）生涯学習課

（2）スポーツ健康課

4 議 案

今回はありません。

5 検討事項

今回はありません。

6 その他

（1）市議会 6 月定例会一般質問について

（2）市議会 6 月定例会議決結果について

（3）平成 2 8 年度保育園の運営状況について

（4）永明小学校永明中学校等建設検討委員会の進捗状況について

次回定例会教育委員会日程について

7 月 2 6 日（木）午前 9 時 0 0 分「7 0 5 会議室」

（事務局会議 7 月 1 2 日（木）午前 9 時 0 0 分「7 0 2 会議室」）

7 閉会

教育長

只今から、6月定例教育委員会を開催します。

前月の5月の会議録の確認をします。何かありますか。

全委員

異議なし。

教育長

それでは報告第1号教育長報告をさせていただきます。

6月1日に幼保小連携協議会がありました。幼稚園、保育園、小学校の担当の先生が集まり今年の幼保小連携教育のあり方について協議いたしました。保育園の子どもの育ちを見届け、どのようにして小学校に繋げていくかが今年の課題になると思います。

2日に金沢小学校運動会があり、本年度市内初めの運動会でした。多留姫の里まつりがあり、大変賑やかに行われました。

3日にこども祭りがありました。約40団体の方に協力していただき、子どもたちが企画・運営に関わっていました。延べ2000人の来場があり、親子連れで来ていただき大変良い祭りだと感じました。

4日に議会がありました。

5日に県教委視察（業務改善・永明小学校・育ちあいちの）がありました。県の方からいらっしゃって業務改善についての様子を視察にきました。永明小学校では統括コーディネーターとスクールサポートのモデル的な業務改善の様子を見ていただきました。その後6階の育ちあいちのを視察にきましたが、熱気と連携の良さを感じたそうです。

米沢小学校のセカンドブック手渡し会と不登校対策委員会がありました。

6日に県打合せがあり、業務改善について打ち合わせをしました。

7日に社会教育委員の会があり、今年度第1回目の会でした。生涯学習全体についてご意見を伺っていきます。英語推進委員会は第2回目でした。

9日に中体連のバスケットボール大会開会式があり、総合体育館で行われました。

10日に市総合体育大会・開会式があり、2月まで大会が行われるそうです。

13日に市校長会、ロングモント打合せ会、図書館協議会、小平奈緒さん後援会解散式が行われました。

14日に教委事務局会、信濃福祉センター挨拶、福祉教育委員会がありました。

15日に公民館運営審議会、オアシス打合せがありました。公民館も生涯学習の指針に基づいて今年新たに運営が開始されていきます。

19日に議会の最終日でしたが、金沢小学校給食室火災があり、非常に悲しい出来事があった日です。子どもたち、保護者の方、地域の方に多大なご迷惑をおかけしました。原因と今後の対応策については20日の臨時教委でお話しした通りです。

20日に臨時の校長会、臨時の教育委員会がありました。金沢小学校の件についての会
であります。

22日にこども家庭応援会議があり、今年度初の会議でした。どんぐりプランについて
の貴重なご意見をいただきました。

23日に保育所保護者連合会の総会と報告会がありました。

本日は理科大の視察、定例教育委員会になります。

27日は定期監査報告会、博物館協議会、市Pと校長会との懇談会、保育所運営審議会
があります。

28日に本の寄贈（信州が生んだ二人の教育者 沢柳政太郎と長田新）を朝倉さんが各
学校にしたいという事で持ってきてくださいます。また、園長会歓迎会がありました。

29日に地域経営会議と今年度第1回目の読書ボランティア交流会があります。

報告は以上となります。

次に報告事項第2号、各課からの7月の行事予定について報告をお願いします。

[各課から7月の行事予定について報告]

資料（報告2号）

教育長

この場をお借りして、幼児教育課から台湾訪問について報告をお願いします。

幼児教育課長

6月20日から23日にかけて台湾訪問に行ってきました。

1日目は私立の幼稚園と公立の幼稚園の視察、2日目には幼児教育フォーラムという事
で台湾と日本の幼稚園や保育園における取組み事例をテーマごとに発表したりパネルディ
スカッションを用いて意見交換をさせていただきました。1日目に訪問した幼稚園の視察
の感想ですが、子どもが遊び込むための環境や教材がとても多く整備されていました。ま
た、遊び込めるスペースがしっかり確保されているところが茅野市の公立保育園との違い
だと感じました。

しかし、クラスがそれぞれ独立をしていますので、他の学年の子どもが他クラスに自由
に出入りすることができず、異年齢との交流は少ないように思います。

日本でも絵本の読み聞かせを大切にしていますが、台湾では絵本を一つの教材として自
分たちが物語を自ら作り、発表する取り組みが大きな違いだと感じました。入ることがで
きない状況の中では異年齢との交流が少し足りていないように感じました。

日本も台湾も子どもが自ら学んでいく環境をどのように整えていくかという事に関しま
して、同じ共通意識の中で幼児教育を進めていることに共通点でありました。

台湾の延長保育で残る子どもたちが非常に少ないことに驚きを感じました。働いている父母さんが少ないわけではなく、母親がお迎えに来られない場合は、祖父母が迎えに来るなど家族で子どもの育ちを助け合いながら支えている部分があります。近代的な教育が進んでいますが、人との繋がりや家族との繋がりが根ざしていることに日本との大きな違いを感じました。

今回の訪問でたくさんの事が学べ、とても良い機会だったと感じています。

私からは以上になります。

教育長

ありがとうございました。

質問等ございませんか。

次に報告事項第3号、教育委員会共催・後援についてお願いします。

[生涯学習課、スポーツ健康課から教育委員会共催・後援について報告]

資料（報告3号）

教育長

報告事項について何かありますか。ないようですので次に移ります。

議案と検討事項は今回ありませんので、その他1「市議会6月定例会一般質問」についてお願いします。

こども部長

その他1の資料をご覧ください。

初めに伊藤玲子議員ですが、「子どもが幸せに暮らせる教育環境の充実について」ということで、5つの質問をいただいております。

1つ目の通学路の安全確保についてですが、交通事故件数は記載の通りとなっています。

いずれも軽傷であるという説明をしました。声掛け案件についても記載の通りですが、重大な案件は発生していないという回答をさせていただきました。教職員の街頭指導、PTAの安全パトロール、地区の安全パトロールを実施しているという旨の説明をさせていただきました。

2つ目の学校給食の充実についてですが、特に冬場の対応は、価格高騰時は、もやしの利用増、ジャガイモ等のボリューム感あるものを利用し、価格の影響を受けにくい地場産野菜を利用しているという回答をさせていただきました。

3つ目の小中学校におけるエアコン設置についてですが、それぞれの教室に扇風機を設置していること、暑い期間は夏休みであることと高原都市特有の快適な環境があるためエアコン設置は行わない方針であるという説明をしました。但し、管理計画に基づいて厨房室、厨房休憩室、保健室への設置を行うと回答させていただきました。

4つ目の子どもの豊かな放課後の過ごし方についてですが、学童クラブを小学校9校、諏訪養護学校に14か所開設していることと、環境整備では、花や野菜を育てる活動を負担にならない範囲で実施し、地区こども館では、読み聞かせや工作、花植え等の活動を実施しているという回答をさせていただきました。

5つ目の子育て環境と子どもの貧困対策の充実についてですが、就学援助費の支給、高校生を対象とした奨学金の貸付、児童手当、児童扶養手当等の貸付をおこなっていること、子育て関係課、民生委員等による現状把握、拠点による相談を行っているという回答をさせていただきました。

生涯学習部長

「諏訪大社前宮から諏訪大社本宮にかけての散策マップについて」ということで、1つの質問をいただいております。

1つ目の散策マップの必要性についてですが、前宮から本宮にかけての史跡を中心としての散策マップづくりを茅野市と諏訪市の公民館で協働作業で進めている。

中央公民館では、「お宝マップ」を作成し、活用することで「人と人をつなぐ」ことができないかと考え「お宝マップづくり」を各地区公民館や分館に投げかけてきている。これまで、学習専門委員が中心となり、宮川の坂室から、ちのの上原にわたる「甲州街道てくてくマップ」、諏訪大社前宮に注目した「上社前宮てくてくマップ」を作成してきた。

今回、茅野市中央公民館、市公民館学習専門委員会、諏訪市公民館、中洲公民館中洲の歴史を語る会が中心となって、諏訪大社上社前宮・本宮をつなぐ散策マップの作成に取り組むことにした。観光の観点やまちの活性化にも生かせるマップとして、両市関係者で、現在編集作業を進めている。市の垣根を越えてでき上がったマップをもとに、今後ウォーキングや学習会等発展性は限りなくある。作って終わるのではなく、作ったマップが活用されるよう、今後マップを活用したイベント、講座等を考えていきたいという回答をさせていただきました。

続いて山岸正衛議員です。「2027年開催の(82回)国民体育大会について」で、1項目の質問をいただきました。

1つ目のスピードスケートの競技を茅野市へ誘致することについてですが、ピョンチャンオリンピックで活躍した小平奈緒選手の功績を後世に伝えるとともに、ジュニア選手のモチベーションアップとスケート人口の増加を図り、スケート文化の更なる普及を目指し、小平選手が幼少期に練習に励んだ茅野市運動公園国際スケートセンターに、小平選手をイメージした愛称を募集している。冬季大会は、スキー、スケート、アイスホッケーの3競技と競技数が少ないことや、平成29年1月に「ながの銀嶺国体」を開催するなど、過去に16回開催していることから、冬季大会のスケジュール等は今後、県が進めていくことになる。大会会場を誘致するには、開催希望市町村と競技団体の意向が合致していることや、選手・役員の輸送、宿舎の確保などの準備が必要になると推測される。冬季大会のスケジュール等が発表された時点で、茅野市スケート協会などと協議を行い、誘致できるか検討していく。また、国体の誘致以外に、現在開催している大会に

小平奈緒選手の名前を冠につけたり、小平選手を講師に招いた教室や講座を開催することなど、小平選手の意向を尋ねながら関係者とともに考えていくという回答をさせていただきました。

続いて北沢千登勢議員ですが「八ヶ岳総合博物館の活動を支える基盤づくりについて」ということで3項目の質問をいただきました。

1つ目の「世界かんがい施設遺産」滝の湯堰・大河原堰と坂本養川に関する資料の収集・保存とその活用方法についてですが、八ヶ岳総合博物館は、平成14年度、小学校3・4年生が使用する社会科教科書に、坂本養川により開削された農業用水（堰）が取り上げられたことを契機に、同年7月、業績を広く知っていただき、子どもたちの学習の場として、坂本養川コーナーを設置しました。坂本養川が開削した繰越堰の仕組みや模型、諏訪の農業用水と養川の関わりが分かる年表、開削した堰の地図などの展示や、大型スクリーンでビデオを上演し学習できるようにしている。平成28年11月、世界かんがい施設遺産に登録されたことから、登録証などを展示し、歴史的・技術的・社会的価値のあるかんがい施設であることを紹介している。来年度、養川に関する企画展を実施し、展示解説していきたいと考える。その際に堰の管理者である土地改良区や関係区などに資料をお借りし、コーナーの充実をしていく。また、図録、ガイドブックなどを作成し、養川や堰の学習に役立つ環境を整えていきたいという回答をさせていただきました。

2つ目の研究員の育成と機器の充実は進んでいるかについてですが、市民研究員の制度は、平成25年度に発足し、1期3年で活動いただき、今年度は2期目の3年目。植物、きのこ、シダ、実験工作、天文の分野に加え、今年度は、「語り伝承グループ」が発足し、6分野で活動している。市民研究員の認定要件は、各グループの活動に年8回以上、3年間で24回以上参加し、博物館専門委員の推薦を受けることが必要。認定者は、養成講座の指導者の補助、観察会等の博物館事業の講師、グループの活動の中で講師のサポートをしていただいている。1期目の講座で35名の方が市民研究員に認定された。2期目では、72名の方が学習を深めている。平成28年度に科学実験工作室、整理工作室を整備し、市民研究員のハード面の研究環境は整いつつある。活動に必要な機材は、順次、整えているが、各グループの要望をお聞きしながら整備していきたいという回答をさせていただきました。

3つ目の博物館敷地の有効利用についてですが、博物館の庭には、ふだん目にするものの少ないネジバナなど、季節ごとの草花や樹木を観察できるようになっている。西側のスペースに、今年度、開館30周年記念事業として自然観察路の整備を進めていく。草木に名札を付け、植物や鳥を観察し、来館者が自然に関心をもち、楽しんでもいただけるようにしていく。学校団体などの博物館利用の選択肢を増やせるよう、敷地の有効利用を図っていく。また、講堂の稼働率についてはモバイルプラネタリウムの投影が好評で、ほとんど使用している状況であるという回答をさせていただきました。

こども部長

続いて長田近夫議員ですが、「認知症への取り組みについて」ということで1つの質問をいただいております。

1つ目の学校教育などにより認知症への理解を深めるための教育についてですが、家庭科で、「家族・家庭生活」の時間で高齢者や介護の学習を実施している。社会科で、「私たちと現代社会」の時間で認知症の学習を実施している。道徳では、高齢者の気持ちを考え感謝し支えていく教育を実施している。地域や家庭で高齢者を大切にしたい教育環境づくりを目指すと回答させていただきました。

生涯学習部長

続いて小池賢保議員ですが、「図書館について」6項目の質問をいただいております。

1つ目の図書館の利用状況についてですが、本の貸し出しを行っている施設は、図書館本館・10地区の分室・市民館図書室の12施設ある。平成27年度の利用者7万1,987人、貸出冊数は27万8,376冊、平成28年度は利用者6万5,850人、貸出冊数は26万3,177冊、平成29年度は利用者7万268人、貸出冊数は27万3,600冊であった。蔵書数は、平成29年度で22万6,150冊。資料購入費につきましては、平成29年度は950万円であった。諏訪地域公共図書館情報ネットワーク（すわズラー）の利用登録者7,704人で、茅野市の利用登録者は2,088人である。諏訪地域内では最多となっている。諏訪地域公共図書館情報ネットワーク（すわズラー）を利用して、書名、著者名、キーワードで図書を検索することができます。

図書の分類方法は日本十進分類法に従って行っている。特に情報、法律、医学書などは最新の情報が提供できるように心がけているという回答をさせていただきました。

2つ目の図書館の安全対策についてですが、災害時の利用者対応につきましては、図書館独自でマニュアルを作成し、年1回、災害時の避難誘導確認や消火訓練、図書館に設置しているAEDを使用した消防署署員指導による訓練を行っている。書架については、転倒しにくい形の書架の導入及び固定等の措置をしています。また、避難経路のガラスには飛散防止フィルムを貼り、カーテンは防火対策をされたものを使用している。防災計画を作成し、防火管理者講習は2名が受講済であるという回答を致しました。

3つ目の図書館の使命についてですが、館内の環境については、新聞コーナーが暗いとの指摘があったが、新聞コーナーを含め、茅野市図書館は推奨照度である500ルクスを越えている。また、以前足音がうるさいという指摘があり、全面絨毯貼りを検討したが、自由広場が近いこと、館内へのアプローチが短いため泥が落とせないこと、清掃費用がかかることから採用しなかったという経過がある。司書資格については、本館職員11人のうち7人が資格保有者である。職員の情報リテラシー教育については、県立図書館主催講座等に出席し、情報活用能力をあげ、市民サービスの向上に努めていくという回答を致しました。

4つ目の公立諏訪東京理科大学との諏訪地域公共図書館情報ネットワークについてですが、公立諏訪東京理科大学の図書館における今年度の蔵書数は、90,360冊であり、その大部分は、学生や教職員の学習等に必要な専門図書となっている。大学の図書館に所蔵される図書は、公共図書館とは役割が違い、大学内部の教育・研究に活用される図書を常備していくことだと考える。

平成28年度では、学内利用者数が延べ21,143人であったのに対し、一般利用者数は延べ640人であった。（全体の約2.9%）また、同施設の昨年度の登録者数では、学内者が1,141人であったのに対し、一般の方は115人と、約1割となっている。公立図書館との連携については、現行の大学図書館のシステムを公立図書館のシステムへと統一する必要があるとあり、変更に伴う経費も生じることから、図書館カードの一元化は難しい状況である。

なお、茅野市図書館と大学図書館との連携により、図書館相互の図書の貸借は可能。施設間の協力の下で、利用者へのサービス向上を図っていききたいと回答させていただきました。

5つ目の庁舎内の各部署にある図書館についてですが、市庁舎内の各部署で業務上必要となる図書の内、図書館に備えない図書については、予算の範囲内で、必要最小限の図書を購入している。なお、庁舎内には、専用の図書コーナーは設けていないという回答をさせていただきました。

6つ目の特色ある図書館とはについてですが茅野市図書館は、「あるべき姿、果たすべき役割を実現するために」というテーマのもと、「本の図書館から情報の図書館へという流れを定着させる」という目標を掲げてきた。市民が物事を判断するために必要な情報、技術、知識を積極的に外に提供することがあるべき姿、市民の知的欲求に応えることを果たすべき役割と掲げ、情報の図書館に変えていこうと現在も取り組んでいる。昨年度から、こども読書活動応援センターを図書館内に配置した。設置目的は、学校・地域の読書ボランティアの活動を応援すること、読書の森読りーむi nちのなどと連携し茅野市こども読書活動推進計画に基づき公民協働で事業を推進すること、調べ学習コンクールの実施など、相互に連携し協力している。また、地域に関する資料、地域出身者の著作や出版物は積極的に収集し、ロビー展示を行うなどしている。その他、図書館協議会を設置し、市民からの意見をお聞きしながら図書館運営を行っている。今後も知の拠点として、地域に愛される図書館を目指していくという回答を致しました。

こども部長

続いて伊藤勝議員ですが、「市内公立高校について」3項目の質問をいただいております。

1つ目の今年の入学者をどう見ているかについてですが、入学者数は、H28年度116人、H29年度92人、H30年度69人で大幅減少している。県の実施方針案では、少子化の進行により再編を検討する必要があるとしている。県の事業だが、地元高校が地域に根差して発展するよう見守っていくという回答をさせていただきました。

2つ目の地域との繋がりを持っている高校生の活動についてですが、教育理念が引き継がれ、良き伝統を形成し今日に至っている。就業体験、防災対策支援、森林整備体験、企業

見学等の体験学習を実施している。これらは、地域と歩み発展させる会において報告され、市との情報共有を図っているという回答をさせていただきました。

3つ目の行政の関わりを強めることについてですが、毎年、地域連携活動実践推進事業補助金として40万円を補助している。体験学習を通じて、社会の中で自分らしく生きる力を育んでいる。毎年、長中、宮小と地域の清掃活動を行い美化意識を高める活動を実施している。年度始めや台湾交流事業で、学校長を招いて交流を図っている。県の動向や学校の状況を共有し、県の協議会の中で意見を伝えていきたいという回答を致しました。

続いて伊藤正陽議員ですが、「子どもの貧困対策について」3項目の質問をいただきました。

1つ目の生活困窮家庭の子どもたちの学習・習い事や行楽などの生活実態はどうかについてですが、県が生活実態調査を取りまとめた。困窮、周辺、一般家庭に分類した。調査結果では、経験、所有物で一般家庭より低調な傾向がある。市では、台湾交流事業は教育課程に位置付け、実費を支給しているという回答を致しました。

2つ目の子どもがいる生活困窮家庭への支援についてですが、保育料については、軽減をしている。実費徴収の補足事業も実施している。小中学校は、就学援助費支給制度、学童クラブの減免制度がある。高校生は、奨学金制度があり、月2万円以内で年2回の支給、貸与を実施教育費以外では、児童手当、児童扶養手当、母子父子福祉資金の貸付、使用料の減免制度、親子の集い事業等を実施しているという回答を致しました。

3つ目の生活困窮家庭の子どもの実態に合った支援についてですが、学童クラブ指導員の学習支援は難しい。長期休業中に学習支援ボランティアの導入を検討する。学習支援員を中学校区に配置し、不登校児童生徒を含めた巡回指導を実施。学習支援や子ども食堂等の地域の取組に対する助成を検討していくという回答をさせていただきました。

続いて樋口敏之議員ですが、「保育園統廃合の現状とこれからについて」3項目の質問をいただきました。

1つ目の検討委員会の経過とポイント整理についてですが、少子高齢化による財政規模の縮小、保育士不足、保育料収入の減が課題多様化する保育ニーズ、子どもの将来にとって施設はどうあるべきかの視点で議論しているという回答をさせていただきました。

2つ目のバランスある保育園の入園のあり方についてですが、H11に通園区域を廃止した。現在山間地域の入所率が低い。保護者は、自宅や勤務先に近い園を希望。山間地への誘導は難しい。山間地園への誘導のための補助制度は、考えていないという回答をいたしました。

3つ目のまちづくりと統廃合問題についてですが、転入者アンケートを実施。魅力は、自然環境、生活環境、水や食の順である。子育て世代はメインターゲット、子育て情報を発信したい。保育園は移住の目玉でなく本来の保育の目的にそった運営をすべきである。その上で情報発信を行っていきたいという回答をさせていただきました。

続いて小平一平議員ですが、「小中学校の部活動について」5項目の質問をいただいております。

1つ目の部活動の実態についてですが、小学校の教育課程内活動は、小4から小6までを主体に年6～12時間活動を実施している。教育課程外の活動は、週に2回程度、朝か放課後30分程度実施している。中学の部活は、平日に1日、土日に1日の休養日を設ける。活動は、平日は長くて3時間以内とする。休日は、午前、午後に渡らないようにするなど、県の活動方針に則って行っているという回答をさせていただきました。

2つ目の部活動をどうとらえているかについてですが、部活動は、教育課程との連携が図られ学校教育の一環として行われるものであり学習者本位の精神に基づく適切で効果的な活動となることを目指している。スポーツ庁は、スポーツを楽しむことで運動習慣を確立し、心身の健康を保持増進し、バランスのとれた心身の成長を図ることを示している。市教委は学習指導要領やガイドラインに基づいた指導を行うという回答を致しました。

3つ目の部活動に厳しさは必要かについてですが、部活動は心身の成長と競技者の育成の観点と学校教育の意義を踏まえた指導が必要である。指導側は、体罰やハラスメントは許しがたいものである。根絶に強い信念を持って取り組むことが重要という回答をさせていただきました。

4つ目の先生の働き方改革への対応についてですが、県の委託を受けた学校現場における業務改善加速事業を実施している。育ち合いちのを拠点に2名の教員が加配され、業務改善に取り組んでいる。各学校教職員で構成する学校業務改善検討委員会を立ち上げ取り組みを検証している。部活動では、部活動指導員の導入を検討していきたいと回答させていただきました。

5つ目のスポーツ庁のガイドラインへの対応についてですが、スポーツ庁のガイドラインを受け、市では今年5月に部活動の方針を策定した。この中で、方針として、休養日の設定、活動時間の基本方針、長期休業中の活動方針、運営に係る協議の場の設定、社会体育活動との連携又は区分、今後の検討事項を定めている。今後は、この方針にそって、学校ごとの状況を確認しながら進めていくという回答をさせていただきました。

教育長

質問等ございませんか。

続いてその他2「市議会6月定例会議決結果について」お願いします。

こども部長

その他2の資料をご覧ください。

教育委員会に係る議案については、前回の会議で内容について説明させていただきました。議案第30号の茅野市子どものための教育・保育給付に関する利用者負担額を定める条例の一部を改正する条例の専決処分の承認を求めることについて、承認をいただきま

した。議案第 42 号の茅野市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例についても可決をいただきました。議案第 43 号の平成 30 年度茅野市一般会計補正予算（第 1 号）についてですが、教育委員会の関係では学校の業務改善、ICT 支援員の賃金、茅野市民館漏水対策、スケートセンターの屋根の修理が主な内容で可決をいただきました。

次に請願・陳情番号・件名についてですが、教育委員会に関係するのは陳情 2 と 3 になります。いずれも長野県教職員組合諏訪支部からいただいたもので、陳情 2 は義務教育費国庫負担制度の堅持を求める陳情書について、陳情 3 が国の責任による 35 人学級推進と、教育予算の増額を求める陳情書ということで、両陳情が採択となりました。その結果を受けて、議第 1 号と議第 2 号の意見書案の提出についてということで、両議案が可決されました。その他に関しては全ての案件で同意、承認、可決をいただきました。

以上になります。

教育長

ありがとうございました。質問等ございませんか。

続いて、その他の 3 「保育園の運営状況について」をお願いします。

幼児教育課長

その他 3 の資料をご覧ください。

平成 29 年度の運営状況についてご説明させていただきます。

平成 29 年度の決算は、歳入では、国の段階的無償化の取り組みに加え、市の独自軽減策の拡充により保育料が減額となっています。歳出では、北山保育園、小泉保育園のリノベーションに係る設計委託料等で事業費、さらに、私立保育園等への助成が増額しました。歳入は、保護者の受益者負担金としての保育料等が 386,213 千円（21.5%）、国・県負担金が 165,832 千円（9.3%）、その他の収入 28,268（1.6%）が主な収入となっていて、残りの 1,211,898 千円（67.6%）を市で負担しています。歳出は、保育士等にかかる人件費が 1,029,037 千円（57.4%）、給食調理業務や施設整備経費の管理費が 226,388 千円（12.6%）、民間保育園や広域入所にかかる委託料が 253,255 千円（14.1%）、保育材料費、賄材料費等の事業費が 146,098 千円（8.2%）、補助金等が 137,433 千円（7.7%）となっています。決算額は 1,792,211 千円となっています。詳細については 1 ページをご覧ください。

2 ページをご覧ください。保育園等入所児童数についてです。平成 29 年度保育園等の入園児童数は、平成 28 年度に比べ 1 歳児以外で各年齢が増加となりました。平成 29 年度は、公立保育園 15 園、私立保育園 2 園、認定こども園 1 園の合計 18 園体制により、子育て支援も含め保育ニーズに対応した施設運営を行っています。各施設の年度別児童数は、15 ページを参照願います。

続いて保育園の利用の仕組みについてですが、新制度では、保育園等の利用を希望する保護者の方に、利用のための認定を受けていただき、3つの区分の認定により利用先が決まることとなります。平成30年3月1日現在の入所状況は、1号認定335名、2号認定1037名、3号認定411名、私的契約児0名、合計1783名が入所しました。保育料の考え方については変更ありませんので省略させていただきます。保育料の軽減について平成30年度は、1号認定第3階層の国基準の利用者負担額（保育料）が減額改正されたことにより、2号認定第4階層の一部で2号認定の保育料が1号認定の保育料（給食費、預かり保育料を含む）を上回る現象が生じたため、2号認定第4階層を分割し、保育料基準額の見直しを実施しました。子ども子育て支援新制度がスタートして以来、保育料の段階的無償化が進んでいます。今後も国の改正を受け、順次対応して参ります。

平成30年度利用者負担額改正内容は先ほど説明させていただいた、1号認定第3階層国基準改正表、2号認定第4階層分割後表をこちらに示してありますので、ご覧いただきたいと思います。また、平成29年度における多子世帯への軽減状況についてですが、国基準の多子軽減で2人目半額が70名、3人目無料が44名となっています。また、年収360万円以上世帯の対象者としては2人目半額が317名、3人目無料が18名となっています。

7ページをご覧ください。茅野市の多子軽減で年収360万円以上世帯が対象になりますが、対象者数は総計420名の方が対象となっています。8ページをご覧ください。ひとり親世帯等、障害者等対象世帯の軽減については、1号、2号、3号認定合わせて128名が軽減となっています。保育料の未納状況については、平成29年度における、児童手当からの申し出徴収は8人62件824,800円、児童手当からの特別徴収は63人142件1,232,860円となっております。なお、未納状況については、22ページを参照願います。特別保育事業について子育て支援では、子どもの健やかな育ちを実現できるよう、保育園を利用している保護者と地域の子育て家庭の全てに対して支援を行っています。延長保育事業については8時間利用を超える場合は標準時間認定で712人、11時間を超える場合は延長保育で40人であり、毎年増加傾向にあります。一時保育事業については、平成10年度から開始しており、平成29年度は、宮川第二保育園・米沢保育園・小泉保育園で実施しています。利用者の実績としては2,603人の利用がありました。障害者保育事業についてですが、平成29年度は、障害児48名に対し、加配保育士34名（1日24名、5時間10人）を配置して、個別支援をしています。続いて12ページになります。病児・病後児保育事業について、ちの本町塚田医院に併設し、実施していますが、29年度の利用は406名の利用がありました。13ページに移ります。特色ある保育園事業についてですが、広域入所を実施していますが、受託児童数は9名、委託児童数は24名になっています。保育サポーターについては、平成29年度の年度途中で1名の退職者がいらっしまったので、12名のサポーターが在職をしています。私立保育園等との連携については「玉川どんぐり保育園」と「わかば保育園」については、社会福祉法人信州福祉会が運営主体となり、保育業務については市が委託をしています。また、「よこうち認定こども園」は社会福祉法人松本福祉会が運営主体となり、子

ども・子育て新制度により新設された幼保連携型こども園として、市が施設型給付費の負担をしています。よこうち認定こども園については、1号認定の利用調整、利用契約、保育料の徴収について園が行っています。一日保育士体験については引き続き実施している事業になりますが、平成29年度の体験率として父26.6%、母59.2%で、平成28年度に比べ増加しています。幼保小連携教育については、引き続き実施をし、平成29年度は、接続期カリキュラムの検証と改善を重点に据え、全幼稚園・保育園のアプローチカリキュラムと全小学校のスタートカリキュラムの授業公開や実践発表、公開研究会等を行い、両カリキュラムの充実と連携を目指した取り組みを進めてきました。15ページについては平成21年度からの入所児童数ということで、こちらは4月1日現在の数値となっていますので、ご覧をいただきたいと思います。16ページから21ページは保育料の基準額表となっていますので参考にいただきたいと思います。最後の22ページでは保育料の未納状況を示していますが、平成29年度の収納率は現年度が99.3%、過年度が17.03%で計97.02%となっています。昨年度と比べますと、現年は0.34ポイント減少しましたが、過年度は4.66ポイントの増となりました。全体としては、平成22年以降一番高い収納率でありました。

保育園の運営状況の報告については以上となります。

教育長

ありがとうございました。ご質問等ありますか。

続いて、その他4「永明小学校永明中学校等建設検討委員会設置の目的について」お願いします。

学校教育課長

その他4の資料をご覧ください。永明小学校、永明中学校の建設については、本年度3月にご説明した第一次茅野市小中学校管理計画を10年間の計画で定めております。その中で永明小学校・永明中学校・宮川小学校を10年間で整備をすることになっています。永明小学校・永明中学校については建替え、宮川小学校についてはリノベーションという事で計画を策定し、教育委員会でも説明をさせていただきました。その中で永明小学校・永明中学校については、いよいよ本年度から具体的に動き出しています。動き出している内容については永明小学校・永明中学校等建設検討委員会を設置し、その中で課題等を踏まえ、市長へ提言をし、その提言に基づいて市で計画を策定している流れになってきています。すでに第1回目の建設検討委員会を5月29日に茅野コミュニティーセンターで開催し、第2回目を6月15日茅野市役所8階で行いました。教育委員会の中では矢崎職務代理者に委員として入っていただいています。

概要について説明させていただきます。委員会の設置目的として本市では平成29年2月に、持続可能なまちづくりを目指し、長期的な視点に立った公共施設等の最適配置に向けた更新や管理等を行うため、「公共施設等総合管理計画」を策定しました。本年3月には「第

一次茅野市小中学校管理計画」を策定し、今後 10 年間の小中学校の整備等の方針を定めました。本委員会では、「第一次茅野市小中学校管理計画」に基づく永明小学校と永明中学校の整備について、その周辺を含む整備方針を検討し、市長に提言することを目的として、検討委員会を設置しています。

委員会での検討事項についてですが、2 項目あります。1 つ目は学校を中心とした周辺整備についてです。こちらは主に道路の関係になります。2 つ目の校舎の配置、周辺公共施設との関係についてですが、こちらは各施設とどのようにして連携・配置をしていくかを検討し、一緒に提言をすることを目的としています。

2 ページをご覧ください。永明小学校永明中学校等建設検討委員会設置要領を定め、委員会の中で承認をいただいたところになります。全 7 条になっていますが、第 1 条は建設検討委員会の設置をこちらで宣言しています。第 2 条は所掌事項として先ほどご説明した 2 点を協議し、市長に提言をすることを所掌の事項としています。第 3 条の組織としては永明小学校及び永明中学校の関係者で組織し、委員の他相談役及び事務局を置くものとしています。第 4 条の任期については、第 2 条に規定する所掌事項が終了した時までとしています。第 5 条の委員長等については、委員長及び副委員長を置き、委員互選により定めるとしています。第 6 条の会議については、委員会の委員長が議長となること、委員の過半数の出席によって成立することとしています。必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聞くことができるとし、委員の中から幹事会を組織することができるとしています。第 7 条のその他については、この要領に定めるほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が会議に諮って定めるとしています。

3 ページ、4 ページをご覧ください。こちらは建設検討委員会の名簿となります。永明小学校・永明中学校の PTA 関係、コミュニティースクール関係、米沢小学校・豊平小学校の PTA 関係、地元ちの地区の区長さん方、豊平地区と米沢地区の区長会長、ちの地区の民生委員・民生児童委員さん方、家庭教育センターの利用者代表、体育練成館利用者代表、ちの保育園の園長・保護者会、矢崎職務代理者さん、永明小中の校長先生・教頭先生方のメンバーで構成されています。この中で地元の区長であり、ちの地区の区長会長である、矢崎敏臣さんが会長、小中のコミュニティースクールに関わっているということ、ちの地区コミュニティー運営協議会子育て部会長である平出美彦さんに副会長をお願いしています。

5 ページをご覧ください。永明小学校永明中学校等建設検討委員会の進め方についてですが、委員会の進め方については先ほど申し上げた通り、周辺道路・周辺の施設との関連性を市長へ提言する進め方となっています。但し、第 1 回の委員会の中で学校についてもう少し語りたいという意見がありましたので、こちらに提示してあるものとは多少進め方が

変わってきています。検討スケジュールをご覧ください。第1回の検討委員会は5月29日に行われ、位置付けや管理計画、検討の進め方についてご説明をさせていただきました。学校の事について語りたいという意見をふまえて、6月の第2回検討委員会からワークショップ形式で協議を進めさせていただきました。6月15日に行われた第2回検討委員会では3点の課題について検討をしました。1点目が周辺道路についての課題、2点目が周辺施設との関わり方についての課題、3点目が学校施設としての課題についてグループに分かれ、それぞれ20分ずつワークショップをしていただき、発表をしました。

行政側からは気づかなかった点などが課題として上がってきています。この課題をまとめ、次回の6月第1回幹事会は7月6日に開かれますが、スケジュール内容を変更し、出していた課題について検討していく形になります。7月の第3回検討委員会でもスケジュール内容を変更し、課題についてワークショップ形式での検討となります。従いまして、第4回検討委員会についても、その続きという形となります。第2回目の幹事会では、とりまとめをし、第5回目の検討委員会で校舎の配置、周辺公共施設との関係についてのまとめと、提言書のとりまとめまでを行う予定となっています。最終は9月までとなる予定です。

続いて6ページをご覧ください。永明小学校・永明中学校建て替えの流れについてですが、平成29年から平成30年のところでは企画と基本構想というような形で考えています。内容については、企画段階では現状把握と問題点の整理、概略の機能・規模・施設内容・予算の検討です。周辺まちづくりの検討、周辺公共施設との関係性の整理については委員会の中で検討していただくものとなっています。それを受け、基本構想段階では設計の前提となる基本的な考え方の作成をしますが、これについては別途、基本構想・基本計画検討委員会を立ち上げ、この中で進めていくということになります。平成31年度以降は設計者選定を行い、基本計画、実施計画、施工者の選定を行った後に工事に入っていくという形になります。また、永明中学校グラウンド遺跡という弥生から鎌倉にかけての遺跡があります。本年3月に試掘を行ったところ、永明小学校の校庭からも遺跡が発掘されました。従いまして、文化財課のほうで範囲を広げ、永明中学校の校庭、永明中学校の校舎下、永明小学校校舎下、永明小学校校庭一部が遺跡の範囲になったという事になります。建設の段階では、発掘の調査が必要となってくるので、時間的にはかかるようになってくると思います。補足として長峰中学校では着手から竣工まで3年間で建て替えが完了しましたが、おそらくその倍はかかるかと思います。

最後のページにあります、永明小中学校整備案イメージは検討委員会でお出さされていた、道路のあり方についてのイメージ案になります。1つ目が現道の拡幅案、2つ目が学校敷地を活用した道路整備案、3つ目が面整備案になっています。これらについては第3回目以降の検討委員会の中で検討していく次第になろうかと思います。

永明小学校永明中学校等建設検討委員会の進捗状況については以上になります。

教育長

ありがとうございました。ご質問等ありませんか。

無いようですので事務局お願いします。

教育総務係長

次回の定例教育委員会日程について報告します。次回の定例教育委員会は7月26日木曜日に午前9時から705会議室で行います。事務局会議については7月12日木曜日に702会議室にて行います。よろしくお願いいたします。

教育長

以上で6月定例教育委員会を終了します。

茅野市教育委員会会議規則第19条第2項の規定によりここに署名する。

平成30年7月26日

茅野市教育委員会 教 育 長

同職務者代理

委 員

委 員

委 員

こども部長